

237 中央大学辞達学会

『法学新報』第十九卷五(二二〇)号

明治四十二年五月一日

○中央大学辞達学会 中央大学学生を以て組織する辞達学会は去月十八日正午より中央大学講堂に於て開催せられたり斯日天氣晴朗、春風飴蕩来り会する者千を以て算ふ定刻会長奥田博士は盛なる拍手に迎へられて登壇先づ開会の辞を述べられ将来本会の發達を期せんには一に諸子の奮励と先輩學員諸君の援助に俟つ旨諭す所あり次で鈴木唯一郎氏は本会の由来に付き横田稔氏は向上の経路に付き田中佳次氏は失題にて新美利久氏は信用と特別担保の法律上の關係に付き長江定一氏は東京株式取引所に付き水町新三氏は光明に付き各其所信を演述し學員新井要太郎氏は天与といふ題下に法律文学を鼓吹し大に聴衆の喝采を博し最後に副会長花井卓藏氏は学生の演説に關し懇切なる批評を試みられたる後「憲法国際法より見たる占領軍の収入支出」といふ問題に付て約二時間に涉り豊富なる材料と流暢なる弁舌とを以て述ふる所あり午後六時に至りて奥田会長の宣言に依り漸く閉会したり当日演説を試みたる学生諸氏は孰れも意氣衝天の概ある者吾人は諸氏が将来益自重自信能く汚俗に染ます超然として質実剛健の我校風を發揮することに勉めらるべきことを疑はず(委員報)